

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K03837

研究課題名(和文) 南アジア系移民企業家と移民システムのエスニック集団別特徴に関する社会学的研究

研究課題名(英文) Sociological study on characteristics of South Asian migrant entrepreneurs and transnational migration systems

研究代表者

福田 友子 (Fukuda, Tomoko)

千葉大学・大学院国際学術研究院・准教授

研究者番号：40584850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：「エスニック・ビジネス」は、ある社会のエスニック・マイノリティが営むビジネスを指す。日本においては、南アジア系移民企業家の経済活動が活発であることが知られている。その主要産業は、中古品のリユース・リサイクル産業、ハラール食品産業、インド料理店である。こうしたビジネスには、エスニック集団別特徴が見られる。パキスタン人、スリランカ人、アフガニスタン人の移民企業家に焦点をあて、その仕組みを社会学的に検討した結果、こうした差異を生み出す要因は、各エスニック集団の移民システムの違いにあると考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は、日本社会において実像が見えづらい移民企業家の主体的な経済活動について、社会学的調査を積み重ねることで、その構図の一端を明らかにした点である。身近なローカル・ビジネスが、グローバル市場へと直結する仕組みを把握するとともに、エスニック集団別特徴という移民内部の差異とその規定要因について検討することができた。

社会的意義は、国際社会学の強みである「国家」を相対化する研究視角を経済的事象に導入することで、日本経済を支えてきたのは「国民」であるという先入観を取り除き、市場の形成に歴史的に寄与してきた多様な背景を持つ人々の存在を明らかにした点にある。

研究成果の概要(英文)：“Ethnic business” refers to a business run by an ethnic minority in a society. The economic activities of South Asian migrant entrepreneurs in Japan are known to be active. Their primary industries are reuse/recycling of used commodities, halal food industry, and Indian restaurants. We can see the characteristics of ethnic groups in such businesses. Focusing on Pakistani, Sri Lankan, and Afghan migrant entrepreneurs, this study examined the mechanism sociologically. The research shows that the factors that determine these characteristics are differences in the transnational migrant systems of each ethnic group.

研究分野：社会学

キーワード：社会学 移民研究 中古車 中古部品 ハラール食品 インド料理 イスラーム 南アジア

1. 研究開始当初の背景

日本の移民研究において、1980年代以降に来日したニューカマーの実態調査や研究が蓄積され、手薄だった南アジア系外国人を対象とする研究も2000年代以降に徐々に進みつつある。ところが一口に南アジア系といっても、多様なエスニック集団が含まれることから、送出社会側の文脈(たとえば国籍、民族、言語、宗教)が異なれば、ホスト社会側でのネットワーク形成過程も変わり、社会適応に相違が見られることが、明らかになってきた。こうした相違を比較検討した研究はまだ少ない。

イギリス、アメリカ、カナダといった欧米諸国では、大規模かつ成熟したパキスタン人移民コミュニティがすでに形成されている。一方、日本、アラブ首長国連邦、ニュージーランド、チリ、ケニアにおいて、パキスタン人移民企業家のニッチ産業となってきた中古車貿易業は、欧米の都市部では発見できず、逆に食料雑貨店、ガソリンスタンド、タクシー運転手等、それぞれ特有のニッチ産業が存在することがすでに明らかになっている。併せて、多民族/多国籍の移民企業家が連携するビジネス・ネットワーク構築がすべての調査地点に共通して見られた。

パキスタン人移民企業家の場合、他のエスニック集団との取引関係や分業関係を確認することができた。中でもアフガニスタン人、バングラデシュ人、スリランカ人、インド人といった南アジア系内部の協力・分業関係は、いずれの調査地においても特に重要視されていた。つまりエスニック・ビジネスの先行研究において基本原理とされる同胞ネットワークの活用だけでなく、外集団との間に形成される社会関係資本がある程度存在し、独自の役割や機能を果たしていることが明らかになった。一方、同じ南アジア系であっても、エスニック集団別にそれぞれ得意な産業や分野が異なることも、指摘されていた。

2. 研究の目的

日本のエスニック・ビジネス研究においては、南アジア系移民企業家の経済活動が活発であることが知られており、その主要産業は、中古品のリユース・リサイクル産業、ハラル食品産業、インド料理店である。これらにはエスニック集団別特徴が見られる。たとえばパキスタン人は中古車貿易、アフガニスタン人やスリランカ人は中古部品貿易、ネパール人はインド料理店に集中するのにに対し、バングラデシュ人は複数業種に分散する傾向が見られる。こうした差異が生じた背景とその構造を明らかにするため、本研究課題では、日本をはじめ海外の複数地点で調査を実施し、南アジア系移民企業家と移民システムの関係を検討した。また、本研究課題の期間中に、ニュージーランドでの在外研究が決まったため、テーマの一部に、日本とニュージーランドの移民企業家のコミュニティ形成に関する比較研究を追加することにした。

3. 研究の方法

本研究課題の第一段階では、文献・雑誌記事や統計データなど資料収集と情勢把握に努め、調査設計を行った。周辺領域の研究者に協力を要請しつつ、過去の研究成果と本研究課題の仮説について意見交換し、検討を加えた。第二段階は、中古車・中古部品貿易業に関する追跡調査である。過去にパキスタン人を対象に調査を進めてきた研究課題であることから、本研究課題では調査対象者を南アジア系に広げてデータを収集した。特に日本国内の調査では、スリランカ人、アフガニスタン人に焦点を当てた。第三段階は、海外調査の実施である。調査地点は、移民受入国(アメリカ、シンガポール、ニュージーランド) 移民送出国(トンガ、フィジー、スリランカ)

である。

研究計画の1年目(2015年度)は、文献調査と千葉県内を中心に国内調査を実施した。2年目(2016年度)は、文献調査、国内調査を進めるとともに、アメリカで海外調査を実施した。さらに共著書の執筆を行い、研究会では研究成果の分析について検討を重ねた。3年目(2017年度)は、7月からニュージーランドのオークランドで在外研究となり、オークランドでの現地調査が研究の中心となった。併せてニュージーランドへの移民送出国であるトンガでの海外調査も実施した。4年目(2018年度)は、7月まで引き続きオークランドに滞在した。併せてニュージーランドへの移民送出国であると同時に、中古車・中古部品貿易業者の拠点の一つでもあるフィジーで海外調査を実施した。また中古車・中古部品貿易業者の拠点であるスリランカでの海外調査も実施した。5年目(2019年度)は、研究成果の総括が中心となった。不足していた海外調査(ニュージーランド)、国内調査、文献調査を補った。本研究課題において収集したデータを整理し、分析作業を進め、学会報告や論文執筆等の機会を利用して成果の一部を公表した。

4. 研究成果

本研究課題から得られた知見は以下の通りである。

(1) 国内調査：ハラール食品産業

ハラール食品産業は「インバウンド/アウトバウンド」という観光産業の文脈で近年注目を集めているテーマである。2011年の東日本大震災後の不況を乗り越えるため、日本の企業や地方自治体は、ハラール食品の「インバウンド市場」(訪日外国人向けのマーケット)に徐々に注目し始めた。2013年7月、日本政府は訪日外国人を増やそうと、ASEAN友好国5カ国(タイ、マレーシア、ベトナム、フィリピン、インドネシア)へのビザ免除やビザ発給要件を緩和する施策を実施した。さらに2013年9月に2020年東京オリンピック開催が決定すると、政府は外国人観光客を10年で倍増させ、2000万人に増やす計画を掲げる。さらに2014年には、インドネシア、フィリピン、ベトナムのビザ発給要件を大幅緩和する。その結果、旅行業のみならず、サービス業、外食関連企業でもハラールに関する取り組みが始まった。千葉市や千葉県をはじめとする地方自治体もまた、観光促進の目的から、ハラール食品産業の普及や支援に力を入れている。1990年代半ばの調査開始時点と比較して、その位置づけの変化には隔世の感がある。

ところが、幕張で開催されたジャパン・ハラール・エキスポ2015における出店企業(移民企業も日本企業も含む)や行政窓口へのヒアリングから、問題の多面性や複層性が浮き彫りとなった。最大の課題は、これまでハラール食品産業を取り扱ってきたムスリムの移民企業家たちが、日本の大企業向けに高額に設定されたハラール認証をコスト的に受けることができない、という本末転倒なものであった。パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュなど多様な国籍からなるムスリムの移民企業家たちは、こうした問題を抱えつつも個々にハラール食品産業に参入し、それぞれのビジネスを継続している。

なおインド料理店という分野においては、ムスリム移民企業家の最大のライバルは、非ムスリムが大多数を占めるネパール人コックたちである(Kharel 2016)。ネパール人コックたちは独自のネットワークを有し、コックになるためのビザの取得から家族呼び寄せに至るまで、システムティックに手続きを進める仕組みを内部に構築していることが明らかになった。

(2) 国内調査：中古車・中古部品貿易業

中古車・中古部品貿易業の研究については、2017年6月に共著書を刊行し、中古品の国際リユース・リサイクル業界に関する過去数年間の研究成果を整理・総括した。また同業界における南アジア系移民企業家の位置づけや集団別特徴については、本研究課題で取り組んだテーマでもあり、パキスタン人とアフガニスタン人の特徴の違いについて、問題の構図や分析枠組みの一部を提示することができた。一方で客観的立場の第三者(読者)からコメ

ントや批判を受けたことで、新たな研究課題を発見し、研究の今後の方向性について再考する機会を得た。他にも理系の学会で報告する機会を得た際に、理系研究者との意見交換の中で中古品産業に内在する「差別/偏見」に関する指摘を受けた。この経験は中古品業界が歴史的に抱えてきた問題構造を再認識させ、社会学が移民研究において果たすべき役割を捉え直す機会となった。

(3) 国内調査：難民研究とエスニック・ビジネス研究の接合

これは(2)の中古車・中古部品貿易業から派生した研究課題である。本研究課題開始時点では、テーマとしてさほど意識していなかったが、(2)の研究を進める中で、難民研究とエスニック・ビジネス研究の接合という研究テーマが浮上した。千葉県は自動車解体業者及び中古部品貿易業者が日本で一番多い自治体と言われており、中でも印旛地域(四街道市、佐倉市など)は日本有数の中古部品貿易業者の集積地域となっている。中古車貿易業は、移民企業家の参入が多く、特にアフガニスタン、スリランカ、タイ、台湾、パキスタン、マレーシア出身の業者が多いと言われている。中古車貿易業者同様、南アジア系を中心とする移民企業家のニッチ産業となっていることが明らかになった。印旛地域の中でも、特に四街道市にアフガニスタン人が多く居住していることから、その経済活動に関する調査を開始したところ、彼らが実は難民的要素を持つ移民企業家であることが明らかになってきた。さらにアフガニスタン人企業家が家族呼び寄せした成人女性の抱える生活課題や日本語教育支援の不足、公立小中学校における第二世代の教育問題も次々と判明したことから、これらの調査研究も追加した。

(4) 海外調査：アメリカ(2016年度)、シンガポール(2017年度・2019年度)調査

アメリカ調査では、調査協力者の都合により、地方都市(モンタナ州)及び西海岸の大都市(ロスアンジェルス近郊)における移民のコミュニティ形成とイスラームの宗教実践を中心に調査した。その結果、過去2回の東海岸調査(ニューヨーク近郊)で得たデータとはかなり異なる状況が確認された。アメリカ内部の多様性を痛感したと共に、移民のコミュニティ形成や社会適応は、同一ホスト国内であっても安易にモデル化できないことを確認した。

シンガポール調査は、国際学会への参加に合わせて、予備的調査を計2回、スポット的に実施した。多民族社会であるシンガポールでは、複数のエスニック集団が共存しているが、各エスニック集団別の集住地域を作らせないため、政府が移民の居住地を厳密にコントロールしており、それが巨大団地への分散居住という形で成立している。一方、各エスニック集団の宗教実践については、ある程度の自由が保障されていることも明らかになった。

(5) 海外調査：ニュージーランド調査(2016~19年度)

オークランドは世界有数の多文化・多民族都市である。一般的に中国系(4%)、インド系(4%)、太平洋島嶼国系(7%)が移民の三大グループと認識されている。人口は都市に集中しており、中でも経済都市オークランド大都市圏の人口は、全人口の三分の一を擁する。移民はオークランド大都市圏に集中しているため、その移民比率は上記の全国の比率よりはるかに高い。

移民の集積地域は一か所に固定しておらず、市内各所に多数存在し、かつ分散立地している。そこで移民コミュニティの中でもインド系(南アジア系)移民の集住が顕著とされる地域を選び、その地域で参与観察を行った。一つの地域にほぼ毎日通い、人々の日常生活を観

察し続けた。現地調査の結果、南アジア系内部でもエスニック集団別に特異な産業が異なり、その現れ方が日本とニュージーランドで異なることが明らかになった。この違いの要因は、日本とニュージーランドの移民政策の違いにあると推測される。具体的には、ニュージーランドの方が人口が少なく、移民を戦略的かつ選択的に受け入れていること、英語の得意な移民が多くビジネスへの参入障壁が低いこと、農業立国であり移民も含め食品産業への参入が推奨されていること、難民をクォータ制で受け入れており収容施設出所後に起業する傾向が見られること、などである。

(6) 海外調査：トンガ調査(2017年度)、フィジー調査(2018年度)

これは(5)のニュージーランド調査から派生した研究課題である。前述の通り、オークランドには太平洋島嶼国系移民が多数居住しており、その社会的存在感は大きい。加えてニュージーランドと周辺の太平洋島嶼国の経済的結びつきは強く、これらを同一経済圏と捉えることもできる。そこで在外研究中に移民送出国である近隣の太平洋島嶼国の調査を追加することを考え、トンガ調査(2017年度)とフィジー調査(2018年度)を実施した。トンガとフィジーは、太平洋島嶼国としてニュージーランド国内においてはひとくくりにされることが多いが、その差は大きかった。特にフィジーはトンガに比べて大きな島であり、中古車・中古部品貿易市場の規模も歴史もトンガとは異なる。中古車・中古部品貿易業者の歴史分析においても、ハラール食品産業の研究においても、重要な発見が得られた。

(7) 海外調査：スリランカ調査(2018年度)

スリランカは、パキスタンやニュージーランドと並び、古くから日本を起点とする中古車貿易の有力な仕向け地の一つであった。しかしながら、パキスタン人企業家に比べて業者数が少なかったこと、ニュージーランドに比べて輸出台数が少なかったこと、といった特徴から、さほど注目されてこなかった。今回、日本とスリランカの両方で市場調査をした結果、パキスタン人企業家とは異なる特徴が複数明らかになった。第一に、中～大規模の成功した企業がある程度存在し、出身国の観光業や不動産業への投資といったサイドビジネスが盛んである点である。第二に、スリランカは中古車の輸入規制が厳しいため、輸出台数は少ないものの、ほぼ新品の中古車(新古車)の取り扱いが多く、商品単価が高い。結果的に利益率が高く、薄利多売のパキスタン人のビジネス・スタイルに比べて、余裕のあるビジネスを展開している。出身国側の治安や投資環境も比較的安定しており、その利潤を出身国以外の地域へと再投資することもできる。さまざまな要因から、ビジネス拡大も可能な環境が整っている。第三に、中古車貿易業者よりも、中古部品貿易業者の存在感が大きい点である。その理由はまだ明らかになっていないが、パキスタン人企業家が中古車貿易業の方を好んできたのとは対照的である。第四に、ムスリムの割合は1割程度と元々少ないにもかかわらず、ムスリムの貿易業者の存在感が大きい点である。第五に、非ムスリムにとっては、宗教活動によって培った基盤を経済活動に利用することができない点である。そうした事情を反映したかは定かではないが、在日スリランカ大使館は、「スリランカ人協会」という官製の同郷団体を内部で組織化し、それが中古車貿易業においても同業者団体として大きな力を発揮している。以上、パキスタン人企業家と共通点/相違点が複層的に見られることから、すぐに結論を出すのは早計だが、背景に二つのエスニック集団が持つネットワークの違い、つまり移民システムの違いがあるという点については、そう考察してよいと考える。

<参考文献>

KHAREL Dipesh 2016 "From Lahures to Global Cooks: Network Migration from the Western Hills of Nepal to Japan," *Social Science Japan Journal*, Oxford Academic.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 FUKUDA Tomoko	4. 巻 2017_2_40_017
2. 論文標題 Used Vehicles and Auto Parts Trade in New Zealand and Pacific Island Countries	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア経済研究所 調査研究報告書 地域研究センター「中古品の国際貿易」研究会	6. 最初と最後の頁 103-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 福田友子・前田町子・石田沙希	4. 巻 32
2. 論文標題 [和文翻訳] エドナ・ボナシチ「ミドルマン・マイノリティ理論」（1973年）	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 千葉大学人文社会科学研究所	6. 最初と最後の頁 191-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 福田友子	4. 巻 20
2. 論文標題 在日パキスタン人移民のエスニック・ビジネスと越境する親族	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 三田社会学	6. 最初と最後の頁 38-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 浅妻裕・岡本勝規・外川健一・福田友子	4. 巻 63(1)
2. 論文標題 自動車解体業の歴史にみる移民企業家の役割について（座談会）	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 北海学園大学経済論集	6. 最初と最後の頁 41-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Muslim Migrants' Communities in Japan: Focusing on Pakistani Migrants
3. 学会等名 The Inaugural Conference of the East Asian Society for the Scientific Study of Religion (EASSSR), July 5, 2018, at Singapore Management University. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Transnationalism and Pakistani and Afghan Migrant Entrepreneurs dealing Used Cars and Car Parts in Japan and the UAE
3. 学会等名 The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation, January 6, 2018, at Middle East Institute, National University of Singapore. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Sociological Research on South Asian Migrants and Halal Industries in Japan
3. 学会等名 Halal Marketing and Tourism Research Symposium (HMTRS) 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Transnationalism and Pakistani and Afghani Migrant Entrepreneurs in Japan and the UAE
3. 学会等名 2016 ISA-RC31 "Migration in Turbulent World" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Muslim Societies in Japan: Migrants, Refugees, and Ethnic Businesses of Pakistani and Afghani
3. 学会等名 International Metropolis Conference 2016 Aichi-Nagoya, Japan, Workshop 18=D6, "Situation of Refugees and their search for Co-existence in the host countries II" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomoko Fukuda
2. 発表標題 Transnationalism and Pakistani Migrant Entrepreneurs in Japan and UAE
3. 学会等名 International Seminar on "Islam and Multiculturalism : Islam in Global Perspective" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 岡本勝規・浅妻裕・福田友子
2. 発表標題 中古車輸出の変遷と現状 阪神港を中心に
3. 学会等名 日本港湾経済学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 浅妻裕・福田友子
2. 発表標題 「環境産業」としての静脈産業の発展に関する考察 外国人・移民企業家との関わりに着目して
3. 学会等名 日本環境学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 福田友子
2. 発表標題 国際リユースとエスニック・ビジネス 中古品・中古部品貿易業における南アジア系移民企業家
3. 学会等名 精密工学会ライフサイクルエンジニアリング (LCE) 専門委員会公開ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 福田友子
2. 発表標題 南アジア系移民企業家の集積 / 分散とトランス・ローカリティ
3. 学会等名 地域社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田友子
2. 発表標題 中古車・中古部品貿易業への移民企業家の参入過程と公共政策の変遷
3. 学会等名 日本港湾経済学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅妻裕・佐々木創・福田友子
2. 発表標題 スリランカにおける自動車リユース市場の現地調査報告
3. 学会等名 経済地理学会北東支部例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ASAZUMA Yutaka, SASAKI So, FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Current Status and Distinct Point of Global Automobile Reuse in Sri Lanka
3. 学会等名 Recycling Korea 2019 Busan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Muslim Migrants' Communities in Japan: Focusing on Islam Associations and Cemeteries
3. 学会等名 The Second Annual Conference of the East Asian Society for the Scientific Study of Religion (EASSSR) 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUKUDA Tomoko
2. 発表標題 Public Policies and Ethnic Entrepreneurs Dealing Used Cars and Car Parts from Japan to the Global Market: Focusing on Pakistani and South Asian Transnational Migrants
3. 学会等名 27th International Colloquium of Gerpisa: "Paradigm Shift?" (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 浅妻裕・福田友子・外川健一・岡本勝規	4. 発行年 2017年
2. 出版社 成山堂書店	5. 総ページ数 268
3. 書名 自動車リユースとグローバル市場 中古車・中古部品の国際流通	

1. 著者名 佐藤寛ほか編	4. 発行年 2015年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 243 (169-171)
3. 書名 開発社会学を学ぶための60冊 援助と発展を根本から考えよう	

1. 著者名 Takayuki Yoshimura and Satoshi Katsunuma eds.	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Organization for Islamic Area Studies, Waseda University	5. 総ページ数 100 (29-30)
3. 書名 International seminar on Islam and multiculturalism : Islam in global perspective	

1. 著者名 玉野和志編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 222 (192-209)
3. 書名 都市社会学を学ぶ人のために	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>千葉大学国際教養学部教員一覧 http://www.las.chiba-u.jp/teachers/post_28.html 千葉大学研究者情報データベース (CURT) http://curt.chiba-u.jp/search/ResearcherDetail.aspx?ResNo=2931 researchmap https://researchmap.jp/fukuda-t/ researchgate https://www.researchgate.net/profile/Fukuda_Tomoko Academia.edu https://independent.academia.edu/TomokoFUKUDA オークランド大学ニュージーランド・アジア研究所 客員研究員一覧 http://www.nzai.auckland.ac.nz/en/about/our-people.html#de9d55c3ac18189ca05f611ef188acc8 オークランド大学ニュージーランド・アジア研究所 日本研究センター開催セミナー情報 http://email.business.auckland.ac.nz/2018/0620-Muslim-Migrants-Communities/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----